



発達の気になる子への支援充実を

渡辺道仁 議員
(自民党)

問 幼稚園・保育園における「気になる子」への支援について聞く。

答 ①就学前の発達につまずきのある子どもへの支援を拡充するため、23年度に開始した巡回支援の具体的な内容と成果は。



②保護者や保育士の不安を取り除くため、巡回支援の増加など、支援の強化を行すべきと考えるがどうか。

事前ミーティングを行い、心理相談事業では、子どもとの状態について園と十分に巡回事業で、子どもへの支援を行っている。23年度は、

その他の質問項目

- 市長の政治姿勢（24年度市中期財政計画、広告事業収入）
- 公共交通ネットワークの整備、（宇都宮カット）と自転車整備、本庁舎駐車場の整備、市民サービスの向上（高齢者の健康づくり）、いじめ対策
- 大谷地域の活性化

とならない児童の特性に応じて作業療法士や言語聴覚士などの専門チームを編成し、それぞれの専門的な視点による行動観察を行い、担当保育士等に支援方法などをついて助言や指導を行っている。23年度は、

その他の質問項目

- リンドウ新品种「るりおとめ」の導入
- 市の観光施設（教育情報化）推進基本計画に関する市歴史や文化財等のデジタル化
- 魅力ある学校づくり
- 地域協議会の活動促進と地域学校園の全市実施への対応

で、薬物乱用防止教室を実施している。小学校では、喫煙や飲酒の害を中心に取り扱う薬物乱用防止教室を昨年度は、68校中62校で実施した。しかし、近年、薬物乱用者が低年齢化している現状も見られることか

その他の質問項目

- 都市計画（公共交通ほか）
- 歴史的・文化的資源の観光活用（八幡山公園付近の観光ほか）
- 地域産業の定着と振興（少子高齢化社会における仕事と生活の調和）
- ユースワークによる若者支援
- 市民協働のまちづくり
- 生涯学習と社会教育
- 魅力ある学校づくり地域協議会
- いじめ
- 防災教育



**東部地区の公共交通整備
今後の取り組みは**

岡本芳明 議員
(維新の会)

問 市の産業の牽引役を果たしている東部地区では、住宅、商業などの集積に伴う交通量の増大に対し、交通環境の整備が十分とは言えず、特に公共交通の脆弱さから朝夕の慢性的な渋滞発生や、車の運転ができない高齢者などの日常の移動手段の確保など、様々な課題が発生している。

6月議会では、「宇都宮東部地区の公共交通整備に関する陳情書」が提出され採択された。また、6月から市が実施した「公共交通ネットワークの構築と東西基幹公共交通」に関する市民説明会が開催され、多くの市民が参加してきました。この説明会では、市長自らが説明し、参加者との活発な意見交換がなされたところであり、東部地区の住民のまち宇都宮の推進、誰もが安心して暮らせる市営住宅の整備、本庁舎駐車場の整備、市民サービスの向上（高齢者の健康づくり）、いじめ対策



く。今後は、その一日も早い実現に向けて、全力で取り組んでいく。

その他の質問項目

- 都市計画（公共交通ほか）
- 歴史的・文化的資源の観光活用（八幡山公園付近の観光ほか）
- 地域産業の定着と振興（少子高齢化社会における仕事と生活の調和）
- ユースワークによる若者支援
- 市民協働のまちづくり
- 生涯学習と社会教育
- 魅力ある学校づくり地域協議会
- いじめ
- 防災教育



**子どもたちを
薬物から守れ**

福田智恵 議員
(市民連合)

問 薬物乱用防止対策について聞く。

①小学校高学年で喫煙防止教室、中学校で薬物乱用防止教室が行われているが、小学校高学年でも薬物乱用防止教室を実施し、早期に知識や情報を与えてはいるが急務であると考えている。

②自尊感情の有無が問題行動の出現と関連があるとの研究結果がある。

児童生徒が自尊感情を育むような関わりや経験が、重要な鍵と考えるが、家庭、学校、地域でどのように子どもとも関わるべきか。



①市では、全中学校で薬物乱用防止教室を実施している。小学校では、喫煙や飲酒の害を中心に取り扱う薬物乱用防止教室を昨年度は、68校中62校で実施した。しかし、近年、薬物乱用者が低年齢化している現状も見られることか

その他の質問項目

- 都市計画（公共交通ほか）
- 歴史的・文化的資源の観光活用（八幡山公園付近の観光ほか）
- 地域産業の定着と振興（少子高齢化社会における仕事と生活の調和）
- ユースワークによる若者支援
- 市民協働のまちづくり
- 生涯学習と社会教育
- 魅力ある学校づくり地域協議会
- いじめ
- 防災教育

ら、今後は全ての小学校で、薬物乱用による健康被害や、その違法性について取り扱うよう指導する。

②自尊感情を育むために、日頃からまわりの大人が子どものがんばりを認めることや、子どもの話を聞くなどといった関わり方が重要である。

あらゆる場面において大人が必要性を理解し、親をはじめ、まわりの大人の関わりが大切になるので、引き続き学校便りや親学情報誌などを通して周知啓発していく。